

1 人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

I 研究の内容

○子どもの課題や実態に合った題材と授業づくり

- ・子どもの課題や実態から、ねらいをはっきりさせ、より創造的な資質や能力が発揮できる題材の研究を進める。
- ・様々な場面で子ども1人ひとりに表現の喜びを感じさせる。また、その表現を通し自分や自分の周りの人々、社会、自然環境などを見つめ、子どもが主体となる授業の組み立て方を工夫する。

○子どもの表現活動に寄り添う支援の在り方

- ・子どもの思いに寄り添う支援の在り方を考える。
- ・子どもが何に悩み、どのように考え、試行錯誤した末どのような表現に繋がったのか、作品を表面的にではなく、子どもの声として色々な角度で多様に読み取る研究をする。

○つながりと広がり、先を見通した実践の積み重ね

- ・子ども同士が関わり合い、話し合ひなど互いに学び合うことのできる場の設定を試みる。
- ・題材と題材の関連や小中学校の連携を考えたり、他教科との関連を図ったりすることで、系統的・発展的なカリキュラムの工夫をする。
- ・子どもの生活を取り巻く地域や社会、それに関わる人々とのつながりをもった美術教育を通し、自分自身や社会を見つめていけるようにする。

1 研究の柱に沿って小中学校合同で授業案の検討、実践、検証を行う。また一人一実践により作品研究を実施し、授業の在り方を考える。

(1) 小学校の実践から(9月統一授業研)

『劇的空間 ビフォーアフター』 《5年生》 勝沼小 古屋ゆか先生

学校内の空間を利用し、その場所の特徴をとらえ形や色から想像をふくらませ、その場所を面白い場所に造り替えるという題材である。

今まで造形遊びで楽しく活動した経験がない子どもたちに、場所の特徴から発想する造形遊びの楽しさを感じさせたい。友達に対して自分をさらけ出せない関係にある子どもたちであるため、図工を通して友だちとの関わりを増やし認められる喜びを感じさせ自分を表現することに自信を持たせたい、との願いもあり実践された。

夏休みがあけてすぐの授業であり、事前指導や材料集めが大変だったようである。しかし沢山の材料と道具の準備によって子どもたちは自分の発想を実現していった。

校内の各場所に散らばって、思い思いに場所を変化させていく姿は実に楽しそうだった。

(2月統一授業研)

『ならべて つないで つんで みて!』 《1年生》 加納岩小 三枝清美先生
小学1年生には、どんな刺激を与えればよいのかがテーマである。大小様々な箱・筒・透明パックなどを沢山用意し子どもの感覚を刺激したり発想の手助けとした。

色の刺激をいかに与えるかと言うことで、トイレットペーパーの芯に色を塗って五色(一色50本)用意した。トイレットペーパーの芯はあつという間に使われていった。

当日は2時間の活動で、子どもたちは集めておいた材料全てを使い、材料の形や色にこだわって並べたり積んだりする活動を楽しんでいた。子どもたちはグループ化せず一人ひとりが自分のやりたい事・つくりたい物に集中していた。面の形を生かして積む行為が多く見られた。

作ることが苦手な子どもも自分なりの見方・視点で活動できた。迷路のようになって、後でみんな遊ぶ姿が見られた。

(2) 県教研レポート

『どんどん どんどん つないで つないで』 《2年生》 神金小 廣瀬きよ美先生
子どもたちの経験の少なさを図工の時間にどのように補いながら、身近な材料から発想し身体全体を働かせてつくる楽しさを味わわせたいと考えた。

【A 題材】材料とふれ合う「大きな紙で」 【B 題材】身体全体を働かせる「ならべてつないでつんで」 【C 題材】材料を変化させて「どんどん どんどん つないで つないで」新聞紙を使った題材を関連づけ1つの題材が次の題材に繋がるように取り組んだ。

新聞紙をはさみや手でテープ状に切り、それをつなげたり、つり下げたり、ひろげたりする活動である。徐々に長くなったり八方に広がったりしていく紙や空間から、子どもはだんだんと変化していく周囲の様子を楽しみながら活動していた。

また、「どんどん」や「つないで」の繰り返しによる題材名の工夫も子どもの意欲を高める工夫のひとつになった。

II 成果と課題

1 成果として

小中合同でしかも会場持ち回りで研究することで、互いの学校の子どもの課題も見えるし、実態にあわせた指導を研究することができた。テーマが取り組みやすく生徒の実態に応じた題材を選定することができた。

教育祭図工美術作品展の研究会の場で、アートカードの研修などを行うことができ、研究をさらに広げることができた。題材名の工夫の重要性、4観点の提示の有効性、が共通理解できた。「何を育てたいのか」がまずあって、そのための授業を組み立てることが大切であるということを確認できた。

2 課題として

部員数が少なく新しい人も入りにくくなっている。そのため研究も深まりにくい。互いに学びあえる内容・研究の工夫ができるとよい。

(部長 小林 紀子)